



研修だより



No. 4

ディスカッションで考えたことを実行します！



涙と感動のフェアウェルパーティーから約3週間たった12月16日（土）に、アセアン加盟国中学生招へい交流事業の国際交流実行委員（以下、「実行委員」とします。）が、国立吉備青少年自然の家（以下、「国少」とします。）に事後研修のために集まりました。11名の参加となった今回の

研修は、吉備中央町地域おこし協力隊（3名）をオブザーバーとして迎え、3ヶ国で行ったディスカッションで考えた内容について、実際に活動に移すための研修を行いました。

研修「今後の活動について考える」

研修では、ディスカッションテーマであった「地域の伝統文化」（日本チームは当番祭と加茂大祭）について、今後どのように活動を行うかということをもとに、次の3つのことについて考えました。

①事後活動の選定

→たくさんのことはできないので、3つに絞って考えました。

②事後活動の担当グループ分け

→3グループに分けられました。

③事後活動の企画

→グループごとにいつ、どこで、何を、どうするかを企画していきました。



研修で考えた今後の活動

A グループ（桑村太陽・石井彬菜・葛原ゆう・西崎生時）支援：佐藤泰之

活動「ポスターを作成し、お祭りの参加を呼びかける取り組みについて」

「祭りを持続させる。後継者が不足している」という課題に対して、ポスターを作成し、地域住民をはじめ、町内外にも参加を呼びかける取り組みを行う。

B グループ（天艸らん・難波朱華・福本朱利・菅野佑莉・山口瑚白）支援：佐藤泰之

活動「パンフレットを作成し、 2つの祭りについて理解を深める取り組みについて」

「祭りの意味・何のための祭りなのか」という課題に対して、独自でパンフレットを作成し、各小学校への配布を中心として、2つの祭りについて理解を深める取り組みを行う。

C グループ（池田 湧・木林璃久・山畑瑠海・黒田浩暉）支援：須増和友

活動「ボランティアを募り、 ゴミ袋配布でお祭り会場の美化を呼びかける取り組みについて」

「ごみのポイ捨てが多い。参加者のマナーの問題。分別回収」という課題に対して、当日に向けて、ボランティアを募り、ゴミ袋を配布し、祭り会場の美化を呼びかける取り組みを行う。また、中学生も参加できるように吉備中央町等と連携する取り組みを行う。

最後に

実行委員のみなさん、お疲れ様でした。いよいよ自分たちで考えたことを実行に移す段階に入りましたね。今後は、13人全員ではなく各グループで活動することが多くなります。各支援者と話を進めながら、また地域おこし協力隊からのアドバイスを生かしながら、進めていきましょう！

最後に保護者の皆さま、加賀中学校の先生方、本事業に際しまして、多大なご協力をいただきありがとうございました。

大下展弘（CARP）